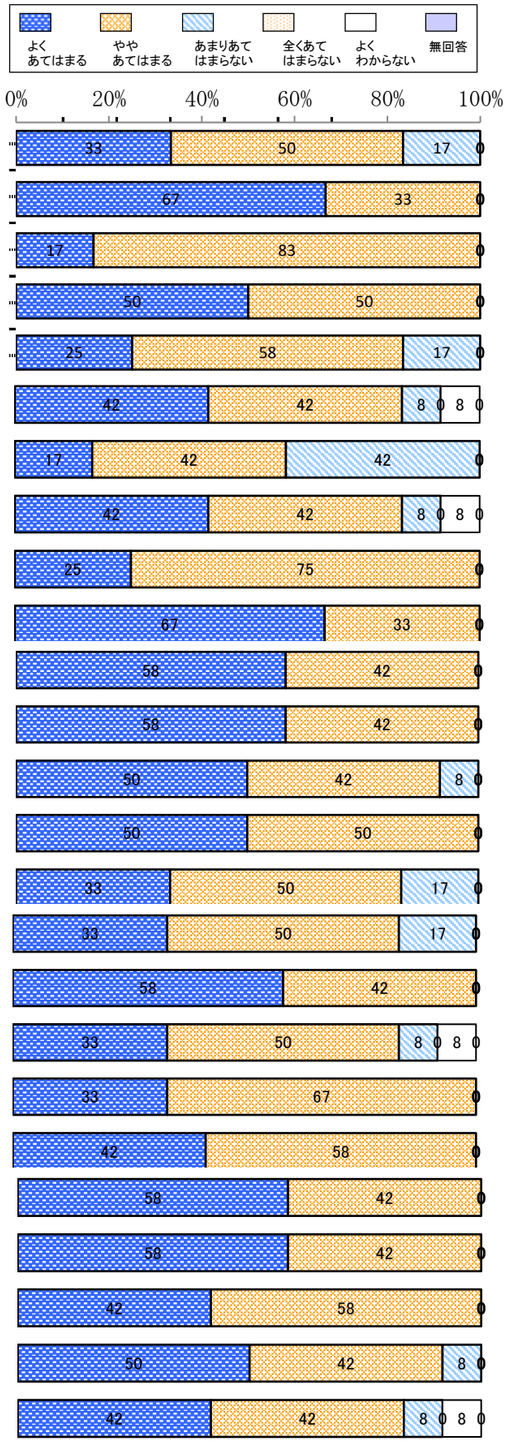
令和7年度　『学校評価アンケートの結果』と『自己評価』

荒川区立尾久第六小学校小学校

様　式　４

		アンケートの結果		上段：児童　下段：保護者等　グラフ：教職員 A	B	C	D	よく分からない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	47	43	7	1	3	0
				43	53	2	1	1	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	73	20	4	1	1	0
				49	44	4	1	1	0
	3	基本的生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的生活習慣がしっかりしている。	46	44	7	2	1	0
				35	55	5	1	3	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	46	41	7	2	3	0
				55	38	3	1	3	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	71	23	4	1	1	0
				61	35	1	0	2	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	61	30	5	2	2	0
				46	41	3	2	8	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	68	26	4	1	1	0
				23	37	24	3	14	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	64	28	5	2	1	0
				37	53	5	0	5	0
	9	情報教育	タブレットＰＣなど、ＩＣＴ機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	65	30	4	1	1	0
				46	45	3	0	5	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	54	33	9	1	3	0
				51	37	11	0	2	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	69	26	1	1	3	0
				44	43	2	1	10	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	48	38	9	1	3	0
				41	47	2	2	8	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	60	30	7	2	2	0
				31	48	5	1	14	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	83	14	3	0	0	0
				73	24	2	0	1	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	55	36	8	0	1	0
				56	34	6	0	3	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	48	31	9	2	11	0
				56	35	8	0	1	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	67	25	3	1	3	0
				43	44	12	0	1	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	62	20	10	5	3	0
				49	40	6	2	2	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	31	39	23	5	1	0
				45	38	1	0	16	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	57	28	7	1	7	0
				35	40	6	0	18	0
各学校の特色ある教育	21	特色ある教育活動	英語の授業では、児童が英語に慣れ親しみ積極的に英語で自分の思いを伝えようとしたり、コミュニケーションを図ろうとしたりする態度を養っている。	50	39	7	1	4	0
				35	47	6	2	9	0
	22	基礎・基本の定着	マスタータイム（計算・漢字などの習熟の時間）やあらかわ寺小屋を設け、一人一人が基礎・基本の力を身に付けている。	60	30	7	2	1	0
				48	43	5	0	3	0
	23	自主的な休み時間の活用	朝休みや放課後、スーパー昼休みには、元気に体を動かしたり、図書室や学級のある本を読んだりしている。	69	20	9	1	1	0
				45	39	6	0	10	0
	24	異学年交流	なかよし班や幼稚園交流など、異学年交流の活動の充実を図っている。	67	27	3	0	2	0
				54	38	2	0	6	0
	25	外部人材の活用	外部人材を活用して、多彩な教育活動の充実を図っている。	55	33	6	0	6	0
				30	56	5	1	8	0



無効票を除く（%）

無効票を除く（%）

学校の自己評価（考察）

◎児童の肯定群が90%、保護者の肯定群が96%と高い割合である。今後も学校の教育目標を意識して生活していけるよう、３つのキャラクターを生かしながら、指導する。

◎児童の肯定群、保護者の肯定群、共に93%と高い割合である。児童が生き生きと楽しい学校生活を送れるように、引き続き声掛けや支援を取り組んでいく。

○児童・保護者どちらとも、肯定群が90%と昨年度とほぼ同じ割合であり、基本的生活習慣は定着していると言える。挨拶については個人差が見られるので、挨拶運動や挨拶カードなどを充実させ、引き続き力を入れて指導する。

○児童の肯定群が87%。保護者の肯定群が93%と、昨年度より児童の肯定群が向上した。一人一人の良さや能力を伸ばし、自己肯定感を高めていけるような指導の工夫を丁寧に行っていく。

◎児童の肯定群が94%。保護者の肯定群が96%と、非常に高い割合である。毎月行っている安全指導や避難訓練の継続の成果だと思われる。

○児童の肯定群は91%。保護者の肯定群は87%と高い割合である。ただ、保護者の「よく分からない」が8%であることから、授業の様子をどのように伝えるかを工夫していく。

△児童の肯定群は94%と高い割合であるが、保護者の否定群は27%である。今年度は算数少人数の教員配置がなく、指導が行えていないことからの数値と予想される。

○児童の肯定群が92%。保護者の肯定群が90%と高い割合である。あらかわ寺小屋の実施や、家庭での学習課題の提示・見取りなどを通して、授業以外の学習の定着が進んでいるといえる。

◎児童の肯定群は95%。保護者の肯定群は91%と昨年度より上回っている。ICT機器を活用した授業や家庭学習の多さが、数値として現れていると予想される。

○児童・保護者共に90%近くの肯定群と高い割合である。蔵書の充実や調べ学習での活用、読書賞への取り組みや図書ボランティアさんの読み聞かせなどで、学校図書館が活用されている。

○児童の肯定群は95%と非情に高い割合であり、いじめ発見アンケートやその後の指導が安心感につながっていると考えられる。保護者の回答に「よく分からない」が10%おり、今後、周知していく必要がある。

○児童の肯定群は86%。保護者の肯定群は88%であり、昨年度と同程度である。引き続き、ねらいとする道徳的価値に迫れるような授業を工夫するとともに、日常での指導も行い、道徳性を育んでいく。

△児童の肯定群は90%と、昨年度より20%肯定群が上がっているが、保護者の肯定群は同等である。保護者の「よく分からない」が14%なので、スクールカウンセラーなど、幅広く相談できる体制があることを伝えていく。

◎児童と保護者の肯定群が共に97%と非常に高い割合である。様々な行事や活動を通して、望ましい人間関係を築き、仲良く学校生活を送ることができていることが分かる。

○児童の91%。保護者の90%が肯定群である。児童が自ら考えながら活動できるように工夫することができていると言える。引き続き、自発的・自治的な活動ができるようにしていく。

○児童の11%は「よく分らない」と回答しているが、保護者の91%は肯定的評価である。ホームページの日常的更新や、学校だよりや学年だより、配信メールなどが効果的であると考えられる。

○児童の92%、保護者の87%が肯定群である。連絡帳や電話による、家庭からの連絡・相談について、素早い対応を心掛けていることが反映されている。引き続き、迅速かつ適切で、丁寧な対応を心掛けていく。

○肯定的意見は、児童が82%、保護者が89%と高い割合である。今年度からオープンスクールとなり、授業公開の回数は減ったが、充実した内容となるように工夫していく。

△昨年度に引き続き、児童の否定群や、保護者の「よく分からない」の回答が多い結果である。その中でも、保護者からは83%の肯定的評価を得ているので、今後も地域との連携を積極的に図っていく。

△児童・保護者の「よく分からない」が7%、18%である。昨年度よりは改善しているが、行事や公開後の保護者・地域アンケートを活用し、変更点を周知させながら、更なる改善に努めていく。

○児童・保護者ともに80%以上の肯定的評価を得ている。特色ある教育活動を一年生から継続的に取り入れたり、コミュニケーションを主体とした活動を多く取り入れたりしたことが、肯定的な意見につながっていると言える。

◎児童の90%、保護者の91%が肯定群であり、昨年度に比べ、児童の肯定群は15%も改善された。マスタータイムやあらかわ寺小屋でのきめ細かい指導が定着してきたと考えられる。

○89%の児童、84%の保護者が肯定的である。休み時間に校庭で遊んだり、学校図書館で本を読んだりして、楽しく過ごしている様子がうかがえる。

◎児童の94%、保護者の92%が肯定群となっており、なかよし班の活動を充実させたり、幼稚園が併設されている利点を生かして交流したりすることができていると言える。今後も、活動の充実を維持していく。

○児童の肯定群は昨年度とほぼ同じ88%であったが、保護者の肯定群は86%と、昨年度より10%向上した。外部人材を活用した内容を、学年だよりやホームページで周知することで、肯定的な意見が増加したと考えられる。